

令和7年度 小平市立 上水中学校 学校評価報告書

学校教育目標

○自ら考え、進んで実行する人 ○心豊かで思いやりのある人 ○心身ともにたくましい人

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 ・生徒が毎日楽しく通って、自分の力を伸ばすことのできる学校 ・教職員が働く喜びと誇りをもてる学校 ・保護者が安心・信頼をもって子どもを通わせることのできる学校 ・学校にかかわる人たちの期待に応えられる学校
- 【目指す児童・生徒像】 ・問題解決や自己表現、他者への共感等の力をもった生徒 ・よりよい人生や社会の実現に向けて、他者を理解し、協働する力をもった生徒 ・基本的な生活習慣が身に付いた、心身共に健康な生徒 ・困難や逆境に出会っても折れない心のしなやかさや回復する心の強さをもった生徒
- 【目指す教員像】 ・よりよい教育活動について考え、行動できる教職員 ・生徒一人一人をいづくしみ、それぞれの良さを認め伸ばす教職員 ・教職員同士、地域・保護者とも力を合わせて教育活動に取り組み、成果を上げることができる教職員 ・成熟した社会人として生徒の範となり、教育公務員としての自覚をもった行動が常にある教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題

- ・生徒の主体的な学習を意識した授業の流れの定着が進んだほか、対話的な学習活動やICTの活用も進み、学力の向上につながる基盤づくりを行うことができた。
- ・教育相談活動の充実を図ることで、生徒の小さな心情の変化に気づき、教職員間で情報共有を進めることで迅速な対応をすることができた。
- ・校務のDX化を進め、業務の改善や削減を進め、一定の成果は上げられたが、働き方改革を更に進めることは引き続きの課題である。

	具体的方策	第1回評価		指標に基づく成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	指標に基づく成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	生徒が自ら課題を立てて解決を図り、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けられるような支援・指導に向けた授業改善を進める。	3	3	ICT機器の活用等も含め、校内での研修会を開催するなど授業改善に係る取り組みは進められた。改善の事例も見られるが、全員ができていない現状である。	3	3	・デジタル教材の積極的な活用による成果がうかがえる ・先生たちの工夫しているよすががよくわかった	各教員が一定のクオリティをもってICT機器やデジタル教材の活用ができるよう、引き続き研修等の機会をもつようにする
	各教科、領域の学習の場においてたと協働しながら解決を図ろうとする力を身に付けられるよう計画的に指導する。	3	2	授業において協働的な学習の場を設けようという教員の意識は多くの場面で見られたが、これについても全員に広がっているわけではないのが現状である。	3	3		協働的な学習にかかわる意識の濃淡が見られるので、引き続き全教員が重要性を理解し、担当教科における協働のイメージをもてるよう支援する
(いじめ防止)健全育成	各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の指導を通じ、自尊感情を高め、差別意識を生まない人権教育を推進する	3	3	様々な場面で人権に係る学習の機会を設け、生徒間でいじめ等で人権上重篤な課題となる事態は発生しなかったが、日常生活上の細かな課題はまだ散在する。	3	3	・生徒自身が様々な課題に自分で対応していく力を身に付けさせることも必要 ・個別の事例に関して、いろいろな角度から見ているようにしてほしい	「自分も大事、人も大事」という人権意識の定着に向けた取組を継続することで、人権意識の不足による課題の発生を未然に防ぐ取り組みを継続する
	日常的に情報収集、共有に努め、生徒の状況を捉えて未然防止に努めると共に、不登校、登校渋りの生徒への支援を進め学校復帰しやすい心理的な環境を整える	3	2	週に一度の生活指導部会や運営委員会での生徒情報の共有を行った。SC、SSW、不登校支援室との連携も確実に実施できたが、不登校の解決や未然防止についての明確な成果はこれから。	3	3		生徒に関わる情報の適時、適切な情報共有を継続するとともに、支援の在り方についての協議の質を高めるためにSC等の専門家の意見を一層活用できるようなシステム作りを進める
業務改善・働き方改革	様々な機器やデジタル機能を活用した学習指導の改善を進めるとともに校務の効率化・省力化を推進する	3	3	デジタル機器の活用は全般的にしっかり進められた。特に校内研修会において生成AIの活用について研修したことは大きな成果につながった。	3	4	・男性教員の育休取得が進むなど、働き方改革への意識が進んでいることが分かった	生成AIも含めたデジタル機器の活用を推進し、更に質の高い省力化が図れるよう、情報収集、活用に努める
	教職員の心身の健康を重視し、働き方改革を進めるほか、相談機関の活用等、適切な支援を受けられる体制を作る	2	2	心身の不調で長期の休みに入る教職員はいなかったが、一部職員の時間外勤務がまだ多い現状が改善できなかった。	3	3		働き方改革の一層の推進に努め、時間外勤務の更なる削減を図る
特色ある教育活動	読書推進を校風として定着できるよう、保護者・地域とも連携しながら様々な取組を進める。	3	3	読書の推進について様々な場面で説明していったことで、生徒・保護者・地域に対しても理解を得られるようになった。特にPTAからの理解が得られ、支援が厚かった。	4	4	・学校、生徒、PTAの連携により読書活動が推進されていることは素晴らしい ・読書に関わるとしても良い環境ができています。	学校だけでなく、PTAや地域図書館とも連携した読書活動の推進を進め、生徒の読書習慣の更なる定着を図る
	教科の学習における学校図書館の活用を進め、生徒の情報活用能力の向上を図る	2	2	学校図書館の授業での利用については、まだ一部教科にとどまっており、広く活用されるよう指導を進める。	3	3		全ての教科で学校図書館の活用に向けた授業を進められるよう、求めていく